

第二章 大区小区制

第一節 区长戸長等行政事務

一 戸長副戸長心得

戸長副戸長村役人御規則書

高麗村役人

記

副戸長 江

一 今般戸長副申付候上者以来御布令柄并ニ諸達書区内一同可触達

分者村々名宛不致戸長副宛ニ而差遣候間区内へ通達可致事

一 区内村々廻状順取調可申出事

一 戸籍法御規則書之内去未四月本紙御布告之儀者最早承知之事ニ

付不相渡同七月氏子守札其外同十二月御改正之分表共毎区戸長副

江一通宛ツ相渡候条其旨可相心得候事

一 区別番号之儀者村順ヲ以戸毎相立可申事

但明き家も番号ヲ相置可申且水車家并隠居家たり共下屋敷門内

ニ無之分者番付いたすへ候

一 番号札寸法別紙通り之事

一 当申正月晦日迄之人員調帳根拠トいたし候御布令ニ付粗漏無之
入念取調戸主共より美濃紙ニ相認メさせ戸長副差出し清書之上戸
へ可差出事

一 右番号札相立并正月晦日之上者人員調等者来ル晦日迄取調庁江
可差出候事

一 生死并寄留縁組出入埋葬等都而御規則之通り前月より取纏メ翌
月庁江差出シ候儀ニ付二分取纏メ三月中可差出事

但付込ニ不致生死并寄留等一々廉分にいたし可認メ候

一 送籍状并入籍状差出シも都而御布令之通り相心得申ノ二月朔日
より同五月十六日までは人員検査中ニ付送籍之出入差止メ事実不
得止事初者当人斗先き方へ遣し五月十六日後送籍状差出し可申事

一 寄留人者他之管轄地江罷越候もの又者当管下江罷越候者而已認
出管内之分者仮令里数隔候共戸長副より戸長副迄之添翰差遣ニ而
別段取調書庁へ差出しニ不及事

一 戸長副給料其外筆墨紙等入費之儀追而定額申付候迄第一区別格
同之分照準仮取立可致事

但シ春秋両度之区内取立者可然ず

一 従前之組合村高等学校所取立者勿論夫々手段も相立居今般区画之
別相立不都合之者も可有之此上差障不相成候様厚ク申諭之事

- 一 社寺願等も戸籍法御布令相抱候類者戸長副ヲ以可相届事
- 一 田畑山林并廻舟私馬持立等総而民産之儀追而取調可差出事
- 一 区内氏子有之郷社村社旧神官并祠堂名前早々取調可申出事
但氏子無之村社も取調可申出事

(別紙)

第何区
何番屋敷

横巾貳寸五分竪七寸厚四分

第何区
何番屋鋪

横巾二寸五分竪七寸厚四分

第一区

番号数千五百廿壹区

社拾壹
内 明家百三十三戸

百四拾四戸 引

同居六拾貳戸 加へ

戸数千四百三拾九戸

人員貫屬三千貳百四拾貳人

人員市中三千四百拾八人

六千六百六拾人

寄留人員三百七拾五人

惣人員七千三拾五人

右第一区老年諸人費見積り

一 半紙貳百五拾六枚

代金四兩三步貳朱下
銀貳匁五分

一 上半切千八百四拾枚

代金三步貳朱下
銀壹匁貳分五厘

一 並半切四千六百枚

代金壹兩貳分
銀貳匁五分

一 美濃紙六拾七枚

代金七兩三步壹朱下
銀七分五厘

一 駿河半紙百廿拾貳枚

代金貳步貳朱下
銀貳匁

一 筆墨

代金貳兩三分也

一 蠟燭

代金三兩 銀壹匁五分

一 厚紙五狀

代金三步壹朱下
銀壹匁貳分五厘

一 筆料其外入費 代金四兩貳分也

一 金拾八兩貳分 小使給料割壹ケ年分

一 金貳百六拾四兩也 戸長老人副戸長三人壹ケ年分給料

但金七兩也 戸長月給

金五兩也 副戸長月給

メ金三百七兩壹歩ト銀五分

此割合取立方

人員七千三拾五人割

老人ニ付永四拾三文六分八厘六毛三弗^(トヤ)

此金家内平均四人八分八厘八毛割

壹戸ニ付

永貳百拾三文五分三厘五毛

副戸長江
村役人

一 相模国管内三拾貳区之内第一第二区ヲ除キ三拾区之内三区或者

四区申合捕亡下役貳人ツ、撰可致事

但月給金壹兩貳分ツ、公費ヲ以賜候事

一 差紙書付之類引受郷宿へ相渡候条一村限り之儀者其村より飛脚

賃錢相渡区内一般ニ關係之分組合割を以可相渡事

但不取急分者村役人婦村之幸便ニ可差出候へ共其外曾而便利之

方法も有之ハ可申出事

一 当今引受郷宿名前可書出事

右之通相達候条評儀之上早々可申出事

村役人江

副戸長江

今般銘々区内戸長副申付ケ候間戸数人員氏子守札縁組送籍入籍生死

埋葬寄留等捻而戸籍御布告之通相心得其他区内一体ニ關係之事件入

念取扱御趣意貫徹候様勉勵可致猶委細之規則月給等者追而可相達事

但名主組頭等兼勤之者ハ猶受其職掌混淆^(不脱)可致様可心付候総而村

役人江別紙申渡書写為心得相達候事

壬申三月

右之通申渡候条得其意是迄村役人ヨリ差出シ来リ候人別帳者向後不

及其儀尤五人組ハ其儘相立置捻而租税を始メ官林有之村々は其場所

又者堤防等取締者勿論訴訟失火盜難等村限り之大小事者従前之通り

取扱今般戸長副被差置候ニ付万一心弛之不取締等生シ候而者以之外

之儀夫は心取違無之様篤と了解層々勉勵可有之尚ヲ委細者追々可申

達候事

但失火盜難等者県庁江届之趣速ニ区々戸長副之内江も通達可致事

別紙

前書朱〇印を以テ相達候分者前段区内村々江不相触候間写取社寺并
村役人とも江可申聞候事

壬申三月

足柄 県

(曾根田重和氏藏)

(注)裏表紙に「曾根田金兵衛写之」とある。

二 戸長拝命につき誓約書

記

今般私共義当区戸長副ニ被 仰付追々御布告之趣有之然ル上者戸籍
之義ニ付而者自村たりといへとも都而戸長副相談之上取斗可申相互
ニ一己之取斗不仕且諸人費精々不相懸様可仕候依之連印仕候処依而
如件

明治五壬申年三月

神奈川 県

相州第一区

戸長

永嶋 庄輔

副戸長

高橋 幸八 (印)

同役人願人

永嶋卯兵衛 (印)

(規定書 相州第一区) 横須賀市立図書館蔵

三 足柄県大区小区設置に関する件達

記

一 大区御設小区ヲ被置候御達書迄通

右

別紙御達書御披見之上村名下江請印被成早々御順達留り村より御返

し可被成候以上

申十一月廿八日

副区長

網嶋弥惣兵衛

メ拾五ヶ村御名主中

(別紙)

今般御達之趣も有之当管内別紙之通大区を設小区を置区长差定候従
来之戸長副戸長ハ副区长名主役者戸長年寄組頭役者副戸長と改唱事
務取扱方者は迄之通ニ候事

但旧区分割合併等之向者戸長副増減不同有之候得共追而可致一定
且□向給料之義者当分是迄之通可相心得事

右之通相達候条区内無洩至急可触知者也

壬申十一月廿四日

足柄県権令 柏木忠俊印

(別紙)

旧第拾貳区相州足柄上郡

戸長

副戸長

追而旧其区第一大区小十一区と可相称事

記

一 第一大区 相州足柄上下郡

一同

内小十四区を置候

一 第二大区 同州海綾郡大住郡

一同

内小十一区を置候

一 第三大区 同州愛甲郡津久井郡

一同

内小六区を置候

一 第四大区 豆州田方郡君津郡

一同

内小十区を置候

一 第五大区 同州加茂(新字)加茂郡那賀郡

一同

内小十一区を置候

右之通御達

壬申十一月

(御用写) (明治五年) 了義寺藏

(注) 曾根田重和氏所藏資料に同様のものがある。

三 神奈川県第十五大区正副戸長任命にとも

なう村役人減員に関する申合書

申合議定一札之事

一 今般名主年寄等御廢し戸長副戸長と改称可致旨被仰渡候ニ付而
者村役人可成丈減員いたし戸長副役人可相願旨被 仰触右ニ付村
内小前一同及集評候処当村之儀者往古より名主老人年寄四人ニ而
御用村用共相勤罷在候処今般御趣意ニ付村役人減員いたし候而者
当節柄別而御用多之時節差支候ニ付従前之通元名主年寄五人ニ而
御用村用共都而是迄之通相勤候積り尤今般御趣意之趣者小前一同

百姓代 小泉 仙太郎 (印)

同 小嶋 卯兵衛 (印)

同 吉原 孝助 (印)

副戸長 小泉 武左衛門 (印)

戸長 飯田 助右衛門 (印)

(「申合議定連印帳」飯田助丸氏蔵)

(注) 署名は資料では一段書きであるが、本書では二段組とした。以下同様に取扱う。

二四 区画改正の大略

兼而及布達候管内区画改正別紙之通確定致候ニ付来ル五月一日より改正大略之主題ニ照準し事務取斗可申右ニ付元区戸長副戸長は一同差免候得共当今取扱掛之事件者新区区长副区长江申談事務深切ニ引渡不都合之儀不相生様可相心得事

右之趣区内之人民江無遺漏触示自然会得致兼候者も有之候ハ、区长副区长より懇切に説諭可致此段相達候也

明治六年
四月

神奈川県権令 大江 卓

(別紙)

区画改正之大略

第壹条

一 管下武相州七郡を貳拾に區別し是を壹区とし区长壹人を置副区长は組々戸長之内にて相心得又其実地の模様依り書記を置区内之事務を可取扱事

第二条

一 壹区中番組を置く組合は凡高貳千石を目的とし大村は壹式ケ村小村は数ケ村を組合せ何番組と可相唱事

第三条

一 村々戸長副戸長之義者先是迄之通可相心得候事

第四条

一 区长副区长人撰之法は部内之戸長副戸長一同江入札為致高札を以て定むる事

但し今般之儀者創業旁県庁に於て人撰致候事

第五条

一 戸長副戸長人撰之法は小前百戸ニ付五人之代議人を兼而撰挙し此代議人之入札を以て定る事区长人撰におなし

但代議人撰抽之儀者追て規則書可相達候

第六条

一 区长副区长戸長副戸長とも高拾石以上之者を撰挙すべし若小高

之者にても格別人望等有之ものは此限にあらず

第七条

- 一 区长以下勤役之義者四ヶ年を以て限りとす四年之後再人撰に當るものは尚四年之勤役すべし

第八条

- 一 総て小前江會議すへき事は右代議人江詢議すへき事

第九条

- 一 区内并ニ組々地理に随ひ会所を造立区长以下出勤日ニ事務取扱へき事

但当分仮に寺院等を以て会所ニ代用するも其便宜に任せ候間取極之上可届出事

第十条

- 一 諸願届取扱之順序は区内一般ニ関する事務は所部之区长江差出し総括之上県庁江差出すべし組内限りの事務は戸長副戸長より直ニ県庁江可差出へき事

第十一条

- 一 区长副区长并書記等之給料あるひは会所諸雜費等者毎口錢を元とし不足之分ハ区内江割合可申事
但横浜町々并宿駅等格別人口多之場所は小間割或は坪割を以て

一切之費用に可充事

第拾貳条

- 一 区长副区长并ニ書記之給料者其实地に就き追而可取極事

第拾三条

- 一 戸長副戸長書役等之給料者同断追而一定可致候得とも夫迄之処組合村々給与之高を平均し可相渡事

第拾四条

- 一 区内一般諸入費之儀は区长戸長等ニテ取調県庁へ申立県庁に於て検査之上可取立事

第十五条

- 一 諸入費之儀者其都度々々小前一同へ計算帳相示候間不審之廉ハ可申立事

第十六条

- 一 地号を唱るは神奈川県管下第何区何番組何州何郡何村何番地誰と可相唱事

但地所之番号は地券調ニ付書出候番号を可相用事

第十七条

- 一 区长以下公用村用にて県庁へ罷出候時は其旨内庁庶務課江届出

第2章 大区小区制

婦村之節も前同様其旨を届くべし

第十八条

一 隣区等江会合之節者其地会所に往返之日を記し置其区长副区长之内証印之上可申立事

第十九条

一 本町村を距る事五里以内は半日程とし五里余より十里までを一日程とす其旅費左之通相定候事

旅費表	一日程	区长
	副区长	戸長
	副戸長	小書書 前役記
四十銭	三十五銭	三十銭

但逗留は各三十銭ツ、を給す

第二十条

一 区长以下公用村用にて県庁江罷出候節ハ区内各組々之事務を兼帶し可成累重之資費を可相省事

第廿一条

一 御布告もの其外触書等は区内へ三日之内ニ相触可申事

第廿二条

一 呼出し差紙之類を総て会所へ相達候ニ付ては其時限屹度罷出候様可相心得事

第廿三条

一 堤防橋梁道路之修繕或ハ用水等肝要之事務等て惣而戸口に關係する事故或は非常之件ある時は代議人を集め會議すべき事

第廿四条

一 前条之儀ニ付他区ト連係する事件は其区と協議すへき事

第廿五条

一 戸籍会所休暇之儀者左之通可相心得事

一月一日より三日迄

六月二十八日より三十日迄

十二月二十九日より三十日迄

紀元祭

天長節

遥拜 御追祭 祈念祭

土神氏神之祭日 日曜日

右之通堅相守可申もの也

(注) 中島富之助『戸塚郷土誌』に同様の資料がある。

(王明治五年
申十一月廿日 御用留「内野悌二氏藏」)

二五 区画改正にともなう代議人選挙に関する

件達(一三)

(一)

第二大区より二十大区まで

正副区戸長江

同 六十戸満	同 三人
同 八十戸満	同 四人
同 百戸満	同 五人

前記一村ニ見做ひ選挙可致且入札紛錯不致椽区長副ニ於て注意可致
旨御談ニ付此段及添達候也

七年七月二日

区 長

庶務課誌

客歳区画改正之大略布達および置候処右則中第五条代議人選挙之儀
其節相達置候人員割合之通相心得毎小区小前一同入札為致其小区之
戸長副立会之上区長副ニおみて是を抜出し老小区限老括ニ致し老大
区中之分取纏メ高札之もの順序姓名書相副七月十五日限申出候様可
致此段相達候事

明治七年

六月廿六日

神奈川県令 中嶋信行

(注) 同様の資料が「神奈川県布達」にある。

庶第二十号

(三)

第二大区ヨリ
二十大区マテ

区 長

戸 長

(二)

前書代議人選挙方法は小区戸長副入札ニ做ひ書式并紙寸等一定可致
且現今戸長副は勿論村堤防掛其他公務ニ関係いたし候ものは差除キ
更ニ平民之内より選挙可致就而ハ戸数目的左ニ記

戸数五拾戸迄

議人三人

候事

明治七年
八月廿八日

神奈川県令中嶋信行代理
神奈川県参事 山東直砥

別紙之通今般代議人撰挙高札之通御採用御辞令相成候ニ付而八都而被仰渡候条々相心得候様能々御申聞小区限請書取之御差出し可被成候此状速ニ順達已下略

七年九月一日

〔区画改正筆誌〕(明治六―七年)内野悌二氏蔵

第十一大区

会所

二六 神奈川県自第二区至第廿区正副区長名簿

第貳区

区长

永嶋 亀一郎

副区长

高梨 林之助

第三区

区长

池谷 政之丞

副区长

小川 喜左衛門

第四区

区长

添田 知通

副区长

村田 雄七郎

第五区

区长

鈴木 清兵衛

副区长

片山 源助

第六区

区长

吉浜 逸作

副区长

高橋 牧之丞

第七区

区长

角田 藤松

副区长

平出 右作

第八区

区长

石坂 鎮四郎

副区长

中溝 昌弘

第九区

区长

佐藤 彦右衛門

副区长

横川 高德

第十区

区长

原 泰輔

副区长

清水 齋兵衛

第十壹区

区长 下田 半十郎
 副区长 小川 弥次郎
 (欄外注記) 二月廿八日依願正副共免役第八区々長石坂昌孝当区々長兼務
 被仰付其後当区正副戸長人札撰拵いたし(マ)明七(マ)四月七日振替之
 通県庁より被仰渡拜命相済申候

第拾二区
 区长 砂川源五右衛門
 副区长 田村 半十郎
 (朱書) 田村 半十郎
 『後二』 副区长 村山 為一郎

第拾三区
 区长 浜中五郎左衛門
 (朱書) 山崎 喜右衛門
 『後二』 細谷五郎右衛門

副区长 第拾四区
 区长 若命 源左衛門
 副区长 福本 寛六郎

区长 第拾五区
 区长 小川三郎左衛門
 副区长 藤波 権六

第拾六区
 区长 山本 庄太郎
 副区长 森 小十郎

第拾七区
 区长 青木 嘉平次
 副区长 内田 茂三郎

第拾八区
 区长 平野 愛之
 副区长 伊藤 清兵衛

第拾九区
 区长 伊東 孫右衛門
 副区长 伊東 庄兵衛

第拾区
 区长 田所 新九郎
 副区长 飯嶋 兵左衛門

(区画改正筆誌) (明治六十七年) 内野第二氏蔵

二七 足柄県正副区长名一覽
 第一区

第2章 大区小区制

十区 鴨宮村 同松本六兵衛	九区 小竹村 長小沢八郎右衛門	八区同 前川村 長石塚彦三郎	七区同 池上村 長宮内太次兵衛	六区同 長鈴木銀二郎	五区同 長清水伊十郎	四区足柄下郡小田原 長小西次郎右衛門	同三 田中九郎	同二 長拜郷源左衛門	長吉田元
同矢作村 同星崎龜三郎	同曾我原村 同中村栄蔵	同国府津村 同長谷川覚右衛門	同上久野村 同長谷川五郎右衛門	同吉田仙助	同関村佐五兵衛	同二見初右衛門	同荒井伊助	同井沢嘉十郎	副田中直右衛門
廿区 同田代五郎衛門	十九区 矢倉沢村 同山崎佐次兵衛	十八区 神細村 同尾崎慶次郎	十七区 川村岸 同細島弥惣兵衛	十六区 金子村 同安藤弥源次	十五区 菅沼村 同熊沢長右衛門	十四区同 柳川村 同大島四郎兵衛	十三区足柄上郡 井ノ口村 同飯田岡村 同高橋權左衛門	十二区 同水塚村 同宇佐美理右衛門	十一区 同成田村 同河野次郎右衛門
同谷ヶ村 同武尾梅吉	同川西村 同細谷四郎平	同川村向原 同尾崎川右衛門	同神山村 同田中六左衛門	同八沢村 同小宮久兵衛	同篠篳村 同内藤九郎兵衛	同北田村 同榎本文右衛門	同中曾根村 同木村平右衛門		

兩坪村 同 矢整 七郎兵衛	中沼村 同 杉 本 太三郎
廿一区 怒田村 同 高 橋 貞二郎	和田原村 同 荒井 二左衛門
廿二区 沼田村 同 安 藤 為之助	栢山村 同 小 沢 弥太郎
廿三区足柄下郡 牛島村 同 府川 徳左衛門	金井島村 同 瀬 戸 礼 助
廿四区 板橋村 長 杉崎 源右衛門	須雲川村 副 加藤五郎右衛門
廿五区 宮城野村 同 宮 原 新太郎	底倉村 同 安 藤 兵 次
廿六区 早川村 同 青木次郎右衛門	根府川村 同 広 井 長十郎
廿七区 吉浜村 同 向笠 五右衛門	宮上村 同 加藤 利右衛門
廿八区 箱根宿小田原町 同 駒 佐五兵衛	三島町 同 安 藤 次三郎
廿九区海綾郡 大磯宿	

同 尾上 六右衛門	同 小島 壯三
同 中川 権左衛門	同 北口 善助
三十区 山西村 同 宮戸 善左衛門	二ノ宮村 同 松本七郎右衛門
三十一区 生沢村 同 二ノ宮 平二郎	中里村 同 関 山 清兵衛
三十二区 千村 同 谷 平右衛門	渡沢村 同 栗 原 清 蔵

(柏木俊孝氏蔵)

一八 区画改正にさいし民費に関する伺および

指令(一一一)

(一)

伺書

老条

区画御改正已来地方高之唱御廢止相成諸入費割合方目的確定不仕追々地方御改正相成候上ハ地券金高割合ニ可相成儀ニ付右地券取調相付候上当分旧高割ニ而諸入費取立候様仕度尤割合者ニより家別人口

等江割当候義者別段都而田畑江割宛候分ハ旧高ニ割合取集候様仕度
此段同上候

貳条

御管下村々凶災用意社倉貯積金人口錢を以去ル明治四未年より来ル
子年迄六ヶ年之間積立候旨御請書奉差上置候処当今ニ至リ大区会所
入費等々毎口錢を以仕払其他学校入費方ニ出金廉多く当惑罷在候ニ
付右社倉積金之儀者当酉年より亥年迄三ヶ年延来ル子より卯年まで
是迄通積立候様仕度御聞濟願上候

参条

区画御改正已来送籍之儀区内者旧戸長調印送籍致他府県送籍之儀者
区长調印ニ而取扱来候処今般各区番組戸長被仰付候上ハ区内者勿論
他区他府県とも都而戸長調印迄ニ而送籍取斗候様仕度此段申上候

四条

村用掛月給金貳拾五錢より金四円迄其村々適宜ニ取斗申度事

五条

貢納并村入費共番組会所ニ而取立村用掛立会割付小札者村用懸リ認
メ戸長見留印之事

但割付小札配達并毎口錢取立等ハ各村家別順番役之事

(六条)

一 番組会所出勤時間并休暇等ハ大区会所同様之事
但タイプルイス相用磅着用之事
本月廿三日会所開之事

(七条)

一 番組会所印

一 番組会所高張

一 番組会所弓張

一 同各村用掛

一 会所標札

右之通桃灯懸札相用度候事

(マ) 八ヶ条

一 村用掛之儀者大小不拘各村屯名宛撰筆可申上事

但地租御改正田畑一筆限絵図面取認メ真価地代金小前帳差出シ

方其地総而村用差添候節ハ小前重立之内并用之もの日当を以相

雇遣ひ立可申事

(九条)

一 道路ニおゐて行倒及病人等有之檢使被仰付等之費用是迄一条不

致候ニ付向後左ニ

一 旅人躰有籍之者

金貳拾五錢埋葬料

此入費金貳円五拾錢

内 金壹円四十錢

番人共二夜昼
手当焚物代共

金四拾錢

死骸雨覆繩代
金四拾五錢

金拾貳錢五厘

埋葬料

一 非人躰無籍之者

内 金六拾貳錢五厘

番人足死骸
雨覆代共

右件々至急御示令被成下置度此段伺上候已上

明治六年第十月十六日

第貳区ヨリ
第卅区迄
各区長判

(注) 伺書の(六)、(七)、(九)の各条は編者が付した。

(二)

『(朱書) 第一条 入費取立方田畑ニ関係する分ハ田高割其余ハ他の方法

相設ケ割合可申事

但其土地ニ重も立候者江商議之方法可取極事

第二ヶ条 貯穀積金年延之義ハ不相成候

第三ヶ条 送籍入籍之義者戸長取扱每一ヶ月取調区长江指出候

義ト可相心得候事

第四条 村用掛月給之義ハ其村適宜を以給与可致事

但給料取極め之上其段可届出置候事

第五ヶ条 貢納并村費とも番組戸長ニ而取集候義と可相心得事

第六条 伺之通

第七条 伺之通

第八条 伺之通

但村用差湊臨時雇入候節者其節々可纏伺事

第九条 行倒死人費用之義者聞置候事』

前書之通御指令相成候間此段御達申上候依而ハ御指令之通り末々迄無遺漏御達可成候也

十一月十一日

第拾壹区会所 (印)

第八番組 (印)

第七番組 (印)

第九番組 (印)

第拾番組

戸長御中

(区画改正筆誌) (明治六十七年) 内野悌二氏蔵

一九 正副戸長の事務引継に関する件達

(朱書) 『第八十六号』

正副

戸区長

先般番組戸長副戸長更ニ撰筆事務夫々為取扱候ニ付而者村々旧戸長副戸長百姓代共今般一同相廃止候ニ付役場関係之書類一切取束目録書ヲ以来ル廿五日限り番組戸長副戸長引渡可申候且右請取渡相濟候ハ、退役受書共区长おみて取纏其旨可申出此段相達候事

明治六年十二月十七日

神奈川県権令 大江 卓

別紙之通旧戸長副并ニ百姓代共相廃止候ニ付公用書類一切番組会所江可差出旨御達ニ付依而ハ旧戸長副百姓代者勿論小前末々迄御説論可成候此段御達申候也

十二月廿一日

第拾壹区会所 (印)

第八番組 (印)

第九番組 (印)

第七番組 (印)

第拾番組

正副戸長御中

(区画改正筆誌) (明治六十七年) 内野悌二氏蔵

二〇 戸長副戸長事務取扱大略

戸長副戸長事務取扱大略

- 一 区長学区取締ニ次キ制限ニ從ヒ番組一切ノ事務ヲ取扱フ事
- 一 組内種々ノ弊風ヲ改メ勉メテ入費減少ス可シ
- 一 番組会所出勤退出休暇ハ総テ区会所ニ同シ
- 一 番組内各村公用村用ニ関スル一切ノ書類ハ悉ク番組会所へ備へ

置クヘシ

一 事務取扱ノ順序ハ總テ各村ノ小前ヨリ村用掛リヲ經テ戸長副戸長ヨリ具狀スルモノ一區中ニ関スルハ區長ヘ差出シ番組限リノ諸願伺届ハ直ニ県庁ヘ差出スヘシト雖トモ必ス區長ノ連印ヲ以テス尤出港先ニ於テ書面改ムルコトアラハ品ニヨリ戸長副戸長ノミニテモ差出スコトヲ許ス

但出発婦村公用ノ次第ヲ庶務課出勤簿ヘ記載シ又婦村ノ上ハ區長ヘ届ク可シ

一 租税上納ノ期ニ至ラハ各村ニ分賦シ之レヲ取立金額精算ノ上區長ニ付ス

一 小前ヨリ租税取立方ハ村々ヨリ種々迂遠ノ旧習ヲ固守シ無謂手数ヲ費ス事不少ニ付更ニ簡便ニ取計フ可シ尤反米反米等(符字)ハ必ス村々均シカラサル故簿冊混乱セサル様詳記シ置ク可シ

一 定免切替年季増ノ類区中二三ノ番組ニ涉ルモノハ各戸長申合せ不都合無之様取計フ可シ

一 地所売買質入書入ノ記帳ヲ制シ置キ地券元帳ニ照シ地価反別ハ勿論年季並ニ連証ノ名面ヲ記シ置キ誤テ二重ニ奥印ス可カラサルヲ要ス

一 用惠水引方ハ是迄村々取扱ノ手配アル可シト雖トモ右ハ田方培

養ノ第一ニシテ怠ル可カラサルノ事件ナレハ猶一層便利ヲ得毫モ私ナキ様最モ注意スヘシ

一 水損村々ハ平常出水防害ノ策ヲ備ヘ置カサレハ臨機ヲ得難ク土地老農ニ的議シ既往水害ノ模様ヲ熟察シ老幼ヲ除ノ外各持場ヲ極メ至当ノ手当ヲ以テ戸長副戸長村用掛世話掛ニテ指揮シ水害ヲ防ク可シ

但持場人足手配ノ方法相立小前一同規定連印イタシ其旨県庁ヘ届置ク可シ

一 出生死亡其他ノ増減ハ村々ヨリ届出次第加除シ區長ヘ届ヘシ

一 毎歳一月一ケ年ノ戸籍増減ヲ檢シ區長ヘ届ヘシ

一 送籍受籍トモ他区ニ関スルモノハ必ス區長連印ス可ク自区中ノ分ハ戸長限リニテ送答シ双方ヨリ其時々區長ヘ届クヘシ

一 組内訴訟起ラハ篤ト事實承リ条条弁解スル様相論シ止ムヲ得サル義ハ區長ヘ申出ヘシ

但答不条理ノ事タリトモ強テ上裁ヲ請ワントスルモノハ其情実ヲ區長ニ告ケ必ス壘蔽スヘカラス

一 番組入費ハ月々詳細計算帳ヲ製シ在來入費引当トシテ村益ノ備ヘアルハ其村入費ニテ引去ル事トシ地価反別戸数当リ等詳ニ割方ヲ記シ區長ヘ差出ス可シ尤モ取立方ノ手順ハ追テ一定ノ規則ニ依

第2章 大区小区制

リ公告ヲ得テスヘシ

一 是迄村々ニテ仕来シ堤防道路橋梁修繕ノ入費或ハ村役無賃人足ノ類其土地便宜ニ任セ相成丈ク合併シ組内平等ノ支費ニ相成候様合議スヘシ

一 社倉積立金八月々取立置年々七月十二月兩度ニ区长ニ付ス

一 村々鎮守祭祀及入費ハ郷社村社確定イタス迄ハ先是迄ノ通りタリ尤入費八月々計算シ区长ヘ差出スヘシ

一 出火ノ節速ニ場所先ヘ出張シ村用掛リトハカリ消防ヲ指揮スヘシ鎮火スルトキハ布告ニ準シ取調区长ヘ届(ヘシ脱)

但消防道具人足手配等ノ方法兼テ用意イタシ置クヘシ

一 難破船ハ兼テ浦方規定ニヨリ救助シ区长ヘ届ヘシ

一 変死行倒人アラハ番人ヲ付ケ置戸長副戸長村用掛立会相改詳細書ヲ以テ区长ヘ届ヘシ

一 路傍餓凍等ニテ歩行不叶歟又ハ既ニ死ニ臨マントスルモノアラハ速ニ出張シ親切ニ手当ヲシ区长ヘ届クヘシ

一 怪敷体ノ者立廻ルコトアラハ土地人民ヲシテ臨機差押エルノ工夫シ置キ自他ノ区ヲ不論賊ノ可相廻ト見込タル場所先又ハ最寄ノ区长選卒ヘ通達スヘシ

一 御布告モノ其他触書等ハ区会所ヨリ到来ノ日ヲ記シ置キ即刻各

村揭示場ヘ張出シ右日限モ同様記載ス可シ

一 田畑耕作ノ出来方水旱損ノ模様ハ時々区长ヘ届ヘシ

一 酒造醬油造其他免許定額ノ外加造スルモノナキ様時々見廻ルヘシ

一 証券印紙ノ類若シ法則ヲ誤ルモノハ番組会所ヘ呼出シ再三説諭シ猶用ヒサルトキハ区长ヘ申出ヘシ

一 紀元祭天長節總テ布告ノ公祭ヲ欠ク可カラズ

一 日限ヲ以テ達シタル諸調物等若シ事実出来難キコトアラハ其情実区长ヘ申出ヘシ無謂延期スルコト勿レ

一 学校ヲ設立スト雖トモ費用ノ備ヘナクシテ永續ノ目的モ難立ニ付組内有志ヲ募リ或ハ適宜ノ民費ニ課スル方ヲ設ケ貧生ヲ救助シ学ニ付カサル兒童ナキ様心掛可シ区内学校ノ盛ンナラサルハ区长学区取締ノ責タレトモ番組ノ行レサルハ戸長副戸長ノ責タルヘシ但学校ノ一切ハ学区取締ノ指揮ヲ受ケ合議ス可シ

一 疫病流行ノ節是迄土地弊風アリテ病者ノ門戸ヲ塞キ通路ヲ禁シ幽樹付暗居セシムルカ為メ一家悉ク伝染シ終ニ死亡ニ陥リ又神經病ヲ孤付ト唱ヘ患者ヲ呵責究問シ医薬撰生ノ道ニ背キタル所分旧ニ依ツテ不改時ハ其實戸長副戸長ニアリ

一 流行神流行伝又ハ無根ノ妄説起ラハ篤ト村民ヲ説諭シ猶止ムコ

トナキハ区長ニ報知ス

一 会所ノ位置ハ各村用掛一同共議シ中央ノ寺院等ヲ仮用スヘシ

一 事務創業ノ際取扱振等総テ衆議スルノ義可有之ニ付戸長副戸長

月々二十日マテ会所ヘ集議ス可シ右ハ当分別段ノ義ナレハ各日当

金十二錢五厘宛ヲ支給ス

明治六年

(神奈川県布達)

三 区長副区長事務条例

区長副区長事務条例

第壹条

御布令書其外御達向到着ノ日ヨリ三日ヲ期トシ区内ヘ洩レナク布達

イタスヘキ事

第二条

区長副区長月々会所ヘ出頭戸長ヨリ出生出入届出次第戸籍加除スヘ

キ事

第三条

毎歳一月戸籍増減各戸長ヨリ差出ス下調書ヲ以テ精密ニ取調製表可

相納事

第四条

区内ノ風俗ヲ悖フシ勸業ヲ注意シ荒蕪ヲ開拓シ道路ヲ修繕シ物産ヲ興ス等ノ義最モ注意スヘキ事

第五条

区内学校ヲ保護シ開化ニ進歩セシムル様注意致スヘキ事

第六条

区内孝義奇特ノモノアルトキハ具状稟啓ス可キ事

第七条

組内限り事務ハ戸長副戸長ヨリ県庁ヘ差出スヘキハ勿論ニ候得共其都度会所ヘ相届ケ区内番組内ノ公用村用為相兼可成村費減少候様注意可致事

但諸願届共区長副区長ノ内奥印ノ上県庁ヘ差出シ届書ハ一通差出

シ申スヘキ事

第八条

区内訴訟起ラハ先ツ願ノ趣旨会所ヘ為申立双方ノ事情篤ト承リ条理弁解イタス様懇ニ相諭シ納得イタサスヘシ若シ止ヲ得サルノ件ハ添書ヲ以テ上裁ヲ請フヘキ事

但毎歳区内ノ訴訟名目製表シ一月中ヲ限リ上啓スヘキ事

第九条

第2章 大区小区制

海辺各区難破船有之節其他戸長ヨリ会所へ届出テ区长副ノ内出張
調イタスヘキ事

第十条

戸長副戸長ノ勤怠ヲ查シ具状スヘキ事

第十一条

諸経費詳細ニ記簿シ各番組入費帳一同取纏メ庶務検印済ノ上三ヶ月
毎二区内へ公告シ疑念ナク出金可為致事

第十二条

書記ハ区长副区长ヨリ申立辞令書相下ケ可申候事

第十三条

区内ノ事務ニヨリ県庁へ出ルトキハ到着並ニ出発トモ其時々庶務課
ノ検査ヲ請クヘキ事

第十四条

区内ヨリ上納スル雑税冥加金等便宜ニ任セ区内取纏メ相納メ候義モ
可有之事

但取集メ預リ中非常護衛注意スヘキ事

右ノ通確守可仕候事

(注) 飯田助丸氏所蔵資料に同様のものがある。

(神奈川県布達)

三 区长戸長事務取扱心得書

第六十七号

各 区
正副区长
正副戸長

先般区画改正区长戸長以下夫々撰挙事務為取扱候ニ付テハ諸入費ノ
義一際節減不致候テハ不相成筋ニ候得共当今諸般改正ノ義ニ付郷村
ノ事務別テ差湊随テ費用モ増加イタシ候ハ各所同一ノ義ニテ事実不
得止勢ニ有之候得共小前未々ニ至リ候テハ右等ノ弁別モ無之只管目
前ノ苦情ヲ唱へ候ハ常情不得止義ニ付テハ区长以下別テ厚注意民費
可成丈減少イタシ候様深切ニ可取計候万一毫毛モ不明瞭ノ義有之候
テハ不相成候条別紙事務心得書相渡シ候間確守可致此段相達候事

明治六年十一月廿九日

神奈川県権令大江卓代理

神奈川県参事 山東直砥

(別紙)

区长戸長事務取扱心得書

一 大区会所番組会所共正副区長戸長ノ自宅ヲ相用ヒ候義ハ不相成候事

一 願何届書トモ区長戸長一名ニテハ差出ス可カラサル事

但出港中又ハ病氣引他出等ノ節ハ此限ニアラス

一 区会所ニハ村用掛以上ノ印鑑帳番組会所ニハ戸長ノ印鑑帳ヲ兼テ備ヘ置可申事

一 各区会所ニ於テ用度ノ物品買上ケ候節ハ必ラス受取書取置キ計算ノ証ニ備フ可キ事

但受取書ハ半紙ニ認可申候

一 用紙ノ類遺払之義ハ何調ニ付何枚入用ト帳面ニ内訳明細ニ記シ置キ申ス可キ事

一 諸回章継送ノ義ハ兼テ帳面ヲ造リ置キ送り届トモ番組ノ受取印ヲ取置可申事

但総テ賃錢ノ類ヲ記載スルニハ幾日何方へ配達此賃錢何程ト認別ニ賃錢渡帳へ受取印可為致置事

一 郵便賃錢等ノ義モ前同様ノ振合ヲ以テ明細ニ留置クヘキ事

一 区长以下旅費ノ義ハ幾日何々ノ義ニ付何方へ出張幾日逗留此旅費何程ト認メ別帳ニ当人請取印取置可申事

右ノ通リ

(注) 飯田助丸氏所藏資料と内野悌三氏所藏資料に同様のものがある。(神奈川県布達)

三 神奈川第三区七番組区画改正にともな

う番組編成に関する太尾村他二か村願上

書(一三)

(一)

今般区画御改正相成候ニ付而者各区番組戸長副戸長御取立相成従前村々戸長副之義者都而御廢シ被仰出村用掛リ并堤防世話掛リ等被差置番組之事務一般ニ取扱民費減少之御趣意小前一同江説論および候処当番組太尾村外式ケ村小前一同より別紙之通難波之始末其筋江申立異候様連印之書面差出候間何分其儘難見捨義ニ付不取敢私共者勿論重立之者篤と集評之上兼而合併之御旨趣モ有之候ニ付小前末々まで懇切ニ申論候処何分共一時会得いたし兼無余儀尚又再応集議之上一際小前人氣不驕立様私共規則□立候取扱之趣意左ニ申上候

一 太尾村外式ケ村台高千三百六拾五石余ヲ以老組と定メ番組御引訳ケ方相願戸長副戸長式人ヲ相立番組之中央ニ会所ヲ設ケ都而事務取扱大略之御趣意ニ基キ聊御差支筋無之様取扱可申事

一 戸長副戸長并村用掛り堤防世話掛り等人撰之義者何れも三ヶ村小前一同入札之上高札ヲ以取極メ尤戸長副勤役之村方ニおゐて者都而兼勤いたし入費減少可致事

一 戸長副戸長以下都而無給ニ而相勤メ尤出港入費者兼而御規則之通一日金三拾錢ヲ支給大豆戸村会所用出勤同様一日金六錢貳厘五毛弁当料手当と見積り其上番組会所出勤者何れも三ヶ村より手弁当ニ而相勤メ其余書役下小使給料之儀者組合村々自愛ヲ以月々至当之手当差遣し候積り且戸長副勤役之義何れも無給之義ニ付永年相勤候得者多分之損毛有之候ニ付一兩年目ニ交代いたし尤古役之者時々見廻り聊事務差支無之様深切ニ取扱可申対談ニ御座候事

一 番組会所遣弘筆墨紙都而諸入費之義者三ヶ村反別割ヲ以差出候対談之事

一 水旱難遁極難之村々ニ候間御收納其外諸上納物等御触達日限通リ取立方難行届分者是迄之通戸長副并身元之者無利足ニ而立替難波之小前百姓相続相成候様取斗都而村入費不相掛様丹誠いたし万事心得諸世話行届候様可致事

前書之通私共一同評議之上取扱向之廉々仕法相立一村治り方專一ニいたし公用并村用共聊御差支筋無之様取斗可申積り一同示談行届候間何卒右願之通御伺之上番組御引沢ケ方被 仰付候様仕度此段小前

惣代元戸長副連印ヲ以奉願上候也

第三区七番組

武州橘樹郡

太尾村

- 小前惣代 前川 権六(印)
 - 元副戸長 森 半兵衛(印)
 - 同 漆原 定八(印)
 - 元戸長 磯部 与右衛門(印)
- 樽村
- 小前惣代 横溝 勘七(印)
 - 元年寄 鈴木 忠兵衛(印)
 - 元名主 横溝 与左衛門(印)

北網島村

- 小前惣代 吉原 孝助(印)
- 元副戸長 小泉 武左衛門(印)
- 元戸長 飯田 助右衛門(印)

前書之通此度番組戸長副御改正相成候ニ付而者村々小前一同より彼是難波之始末申立候ニ付依而村役人并重立小前惣代集評之上右廉書之通り取扱振規則相立其筋江可願出旨一同議定いたし候上者前件願

之義ニ付若果庁御沙汰ニ相成永引候ハ、村々ニ而交代いたし入費等之義者欠字ケ村高割ヲ以差出候積リ一同対談仕候上者重而違変之間敷候依之議定連印いたし置候処如件

太尾村

小前惣代 前川 原太郎(印)

同 同 権 六(印)

同 同 磯部 甚左衛門(印)

同 同 森 鉄五郎(印)

元副戸長 同 半兵衛(印)

同 同 漆 原 定 八(印)

元 戸長 磯部 与右衛門(印)

樽 村

小前惣代 横 溝 勘 七(印)

元 年寄 鈴 木 忠兵衛(印)

元 名主 横溝 与左衛門(印)

北網島村

小前惣代 吉 原 孝 助(印)

元副戸長 小 泉 武左衛門(印)

元 戸長 飯 田 助右衛門(印)

(二)

先般各区番組御改正相成候ニ付而者当番組太尾村外式ケ村小前一同より困迫歎願仕候ニ付重立之者評儀之上人氣不驕立様番組御引訳ケ方相願取扱向仕法相立此程願書差出候処今般御呼出シ之上村費被為厭貧民救助之御主趣厚く御説諭被成下殊ニ先達而戸長副戸長以下都而無給ニ而相勤候旨是又願書差上置候得共右者不相成何れも時節柄ニ比較シ給与不請取者ハ難為勤段被仰聞私共一ト先婦村仕篤と御了解之趣申聞候処一同相弁江候得共何分私共村方之義者兼而申上候通外村々と者別格訳ケ而難渋之土地柄殊ニ追々御増永并諸税上納相嵩ミ兎も割合出金難行届旨末々迄一同悲歎ニ沈ミ難見忍依之不奉願恐多尚又左之通仕法相立此段奉再願候

- 一 太尾村外式ケ村合高千三百六拾五石余ヲ以一組と相定メ番組御引訳ケ方相願戸長副戸長式人ヲ相立番組村々中央ニ寺院等ヲ借受一時仮会所ヲ設ケ都而事務取扱大略之御主趣ニ基キ聊共御差支筋無之様取扱可申事
- 一 戸長副戸長以下人撰之義者誰彼ヲ不論何れも三ケ村小前一同人札之上高札ヲ以取極メ可申事

一 戸長副戸長以下給与之義御利解之趣モ有之且者御規則之義ニ付戸長尅ヶ月金尅円五拾銭副戸長同金尅円定小使金貳円と相定メ書役之義者戸長副勉勵之上相省キ尤出港入費等者兼而御布達之通一日金三拾銭ヲ支給其余日ニ番組会所出勤者何れも手弁当にて相勤メ書役給与之分者未タ組内之小学校更ニ規則不相立候ニ付右ヲ以同校資費ニ遣払度は以村費節減之御旨趣一同相弁江尚一層入費減少いたし候心得ニ候事

一 番組会所遣払筆墨紙都而諸入費之義ハ三ヶ村反別割ヲ以差出月々計算張ヲ区長江示し検査相受可申事

一 水旱両災難遭極難之村々ニ候間兼而先般申上候通御收納其外都而諸入費一時難行届者共者戸長副并重立之者共ニ而立替困窮之百姓相続相成候様取斗都而村入費ヲ厭ひ万事心付諸世話行届候様可致事

前書之通三ヶ村重立之者并小前一同評議之上仕法相立一村治り方專一にいたし殊ニ草創之義ニ付何分共一時多人數之小前会得いたし兼候間尚追々人氣見斗台併為致候上者詰リ盛大ニモ至リ御庁之御見込も可相立と乍恐奉存候間何卒前件申上候始末御推察被成下兼而願之通番組御引訳ヶ方之上ト先治り方之義ニ付土地之適宜ニ任せ為取扱被下一兩年御見試之上外番組より入費等相嵩ミ候得者私共者勿論

一同何様之御仕置被仰付候共其節違背仕間敷候間右願之趣格別之思召ヲ以御採用被成下置度此段奉願上候也

第三区七番組

武州橘樹郡北綱島村

五拾五人惣代

明治六年第十二月

飯田光実(印)

吉原太郎右衛門(印)

小嶋卯兵衛(印)

同 樽村

五拾壹人惣代

鈴木忠兵衛(印)

横溝重蔵(印)

同 重右衛門(印)

同 縄嶋勘助(印)

同 太尾村

九拾壹人惣代

磯部与右衛門(印)

森 半兵衛(印)

前川権六(印)

森 紋左衛門(印)